

## 九 福富忠章覚書

### 解説

寛保元年（二七四一）、福富家第四代目の当主である与三兵衛忠香が、福富家の由緒を書き上げて淀藩に提出した「覚書」である。この「覚書」によれば、福富家の先祖は、駿河の戦国大名今川の家臣岡部五郎兵衛まで遡り得る。本史料に「高祖父」と見える岡部左衛門はその五郎兵衛の子に当たり、今川滅亡後、織田信長配下を経て稲葉一鉄に仕えたという。本史料に「曾祖父」として見える福富善右衛門は、岡部左衛門の末子として生まれ、分家して肥前唐津の寺沢広高に仕えた。その際、広沢堅高の妻が岡部長盛の娘（寛政重修諸家譜）巻第八七一「岡部」参照）であったことから、岡部の姓を憚り福富と改姓したらしい。

その頃、福富善右衛門は豊後大友の家臣である吉岡伝左衛門の娘を室として迎えた。本史料に曾祖母吉岡伝左衛門娘と見える女性がそれである。本史料によれば、この吉岡伝左衛門なる人物は、仕官の口を得ることなく、浪人のまま伊予国松山で没したことが知られる。かくして福富家文書の中に、吉岡家伝来の文書が流入することとなったわけである。

なお岡野（太山喜代子氏寄贈）福富家文書について―その概要と受け入

れの経緯―（皇學館大学史料編纂所報「史料」一五四号）では、本史料に見える福富家の先祖に当たる岡部五郎兵衛を、「寛政重修諸家譜」に岡部次郎右衛門正綱の弟として見える五郎兵衛長教に比定した。これは二二号文書「福富忠章家譜草案」に、「駿州今川家幕下ニ、岡部次郎右衛門・岡部五郎兵衛与申兄弟之仁有之」（五二頁）とあることに拠ったものである。しかるにその後吉井功兒氏より、寛政譜に見える岡部長教は、陸奥中村藩相馬家と越前福井藩松平家の家臣として知られる岡部五郎兵衛家の祖先である岡部元綱と同一人物である可能性の高いことをご教示頂いた（吉井氏「岸和田藩主岡部氏祖系の覚書」下「家系研究」四三号、二〇〇七年）。

岡部氏の研究は、平野明夫氏「堤台城主岡部氏関係史料報告」（『野田市史研究』六号、一九九五年）、椿原靖弘氏「今川家臣岡部氏の行方」（『今川氏研究』創刊号、一九九五年）、大石泰史氏「岡部氏に関する基礎的考察―関東入部以前の岡部氏について―」（『野田市史研究』八号、一九九七年）など、近年長足の進歩を遂げており、福富家の祖先岡部家についても、より一層の考察が必要と思われる。